

「教科指導力高度化演習」の評価

社会科教育・駕原 進

## 1. 授業の基本情報・概要

### (1) 授業担当者

佐野 栄，安部利之，向 平和，中村依子，中本剛，日野克博，藤田昌子，楠 俊明，駕原 進をシラバスにおいて登録している。

### (2) 授業の目的

教科教育と教科内容の教員が共同で授業を担当し，両者の融合により研究的な実践力を育成する。

教育現場等のフィールドを積極的に活用して，高度な実践的教科指導力を獲得する。

1. 授業実践を多面的視点から分析・考察する知見や能力を習得している。(知識・理解)
2. 教科に関する研究的な実践能力を習得している。(技能)
3. 観察や研究の成果を科学的方法によって整理し，それらを効果的に表現することができる。(思考・判断・表現)

### (3) 愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て，適切に表現（記述・口述）できる

広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる

科学的根拠に基づき判断し，解決策を提示できる

様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる

社会的関係の中で自分の行動を調整できる

### (4) 授業概要

履修登録者 14 人，単位修得者 14 人であった。教科教育専攻の各領域（＝教科）において，教科教育と教科内容の教員が共同で授業を担当する。様々な授業場面に用いる教材を通じて，その理論的な意味，学術的な背景等

については教科内容の教員が，教材としての特徴，先行実践と課題，具体的な指導計画等は教科教育の教員が担当し，両者の融合により研究的な実践能力を育成する。

その後，教科ごとに計画している「実践的指導力養成プログラム＊」の自主的・体験的学習を通して実践的指導力の育成を試みる。

＊：実践的指導力養成プログラムとは，教育学部教員が主として講座単位で提供する体験型学習プログラムを指す。

※授業スケジュールは，扱う教材の内容・性質，教科の実情，教育現場等の予定，などの諸条件の多様性に応じて適宜変更する可能性がある。

#### 【前期】

第 1 回：ガイダンス（授業の目的，到達目標等の明確化）

第 2 回：教科教育と教科内容の融合による教材研究 1（教材内容の検討と方針決め）

第 3 回：教科教育と教科内容の融合による教材研究 2（教材内容の検討と方針決め）

第 4 回：教科教育と教科内容の融合による教材研究 3（具体的な教材の研究）

第 5 回：教科教育と教科内容の融合による教材研究 4（具体的な教材の研究）

第 6 回：教科教育と教科内容の融合による教材研究 5（具体的な教材の研究）

第 7 回：教科教育と教科内容の融合による教材研究 6（教育現場の実践視察）

第 8 回：教科教育と教科内容の融合による教材研究 7（教育現場の実践視察）

第 9 回：教科教育と教科内容の融合による教材研究 8（実践視察内容の振り返り）

第 10 回：教科教育と教科内容の融合による教材研究 9（具体的な教材の研究）

第 11 回：教科教育と教科内容の融合による教材研究 10（具体的な教材の研究）

第 12 回：教科教育と教科内容の融合による教材研究 11（課題設定協議会での発表準備）

第13回：教科教育と教科内容の融合による教材研究12（課題設定協議会での発表準備）

第14回：実践的指導力養成プログラムの説明（後期内容説明）と具体的実践内容の立案

第15回：実践的指導力養成プログラムの課題設定協議（専攻全体での発表・報告）

#### 【後期】

第1回：ガイダンスと実践的指導力養成プログラムの内容理解

第2回：実践的指導力養成プログラムの実施1（実践の準備）

第3回：実践的指導力養成プログラムの実施2（実践の準備）

第4回：実践的指導力養成プログラムの実施3（実践の準備）

第5回：実践的指導力養成プログラムの実施4（教育現場での実践）

第6回：実践的指導力養成プログラムの実施5（教育現場での実践）

第7回：実践的指導力養成プログラムの実施6（教育現場での実践）

第8回：実践的指導力養成プログラムの実施7（教育現場での実践）

第9回：実践的指導力養成プログラムの実施8（実践内容の振り返り）

第10回：実践的指導力養成プログラムの実施9（実践内容の振り返り）

第11回：実践的指導力養成プログラムの実施10（実践のまとめと成果報告の準備）

第12回：実践的指導力養成プログラムの実施11（実践のまとめと成果報告の準備）

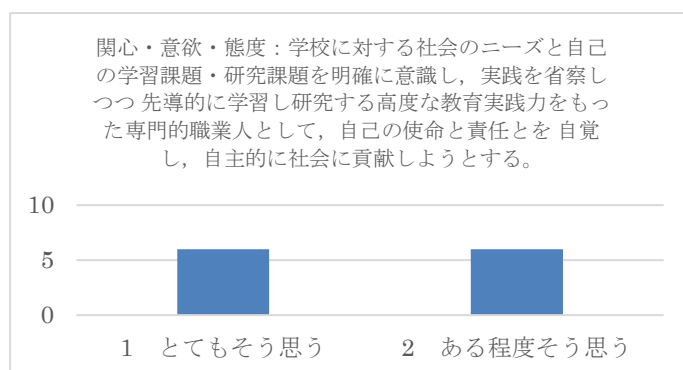
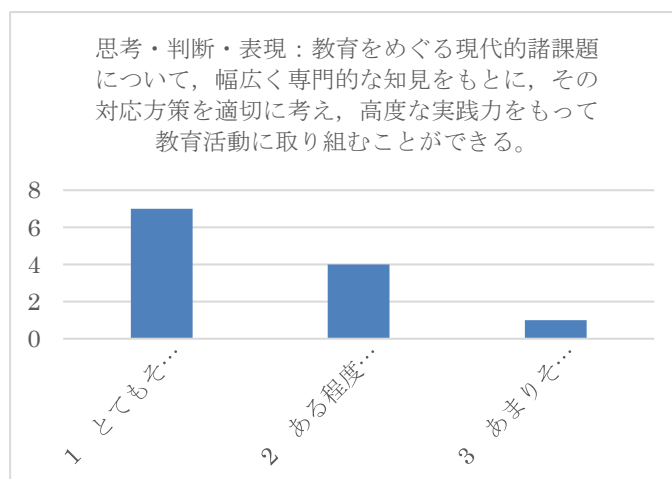
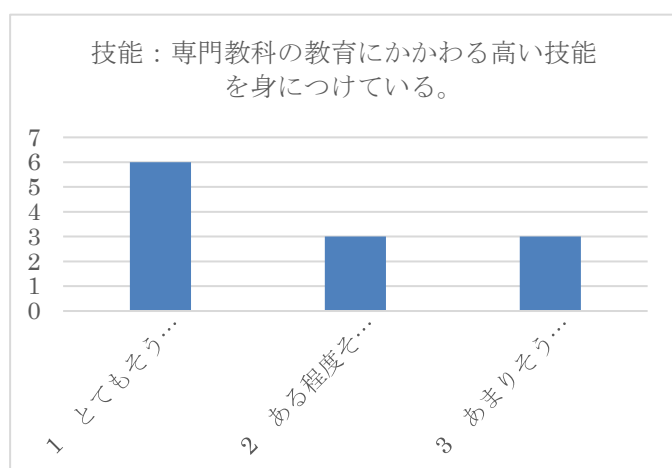
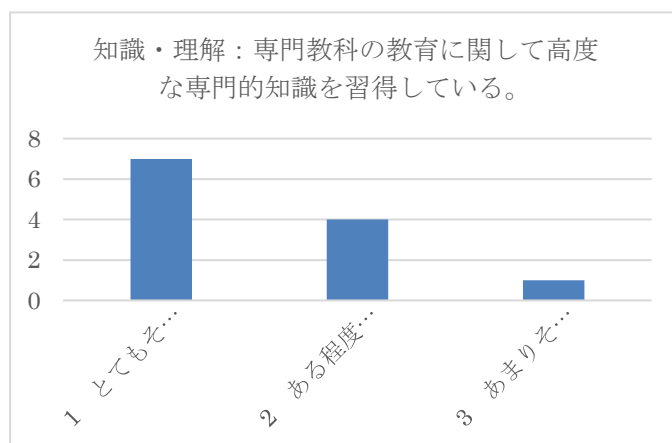
第13回：成果報告会1（専攻全体で行う。誰でも参加可能なオープンな報告会とする。）

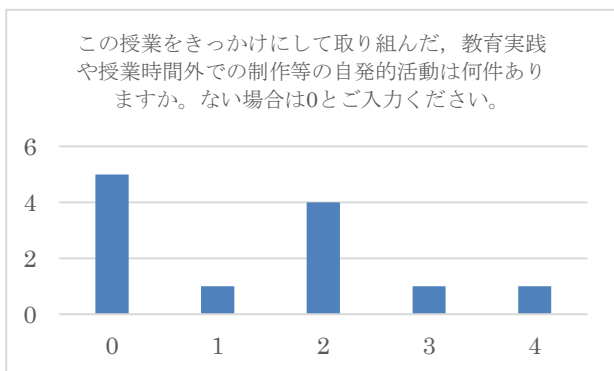
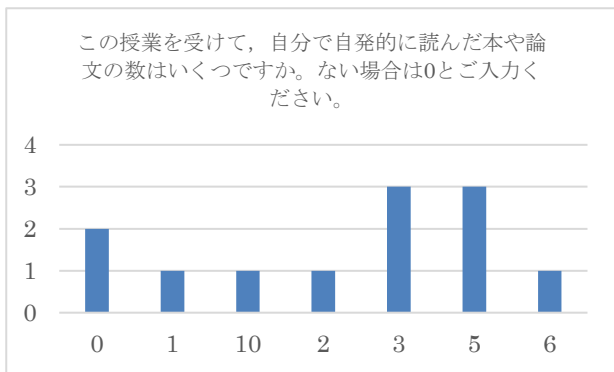
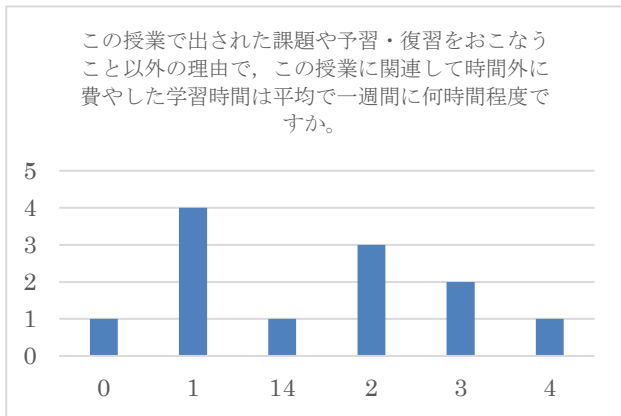
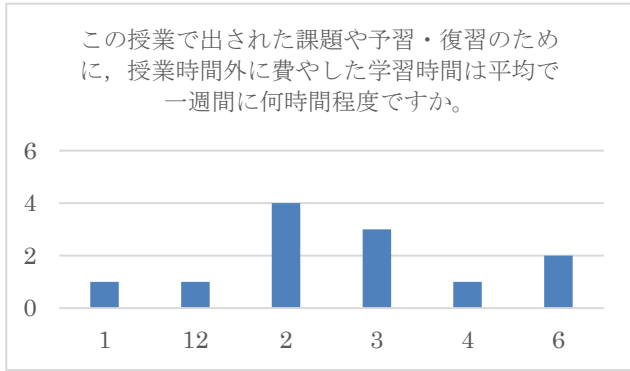
第14回：成果報告会2（専攻全体で行う。誰でも参加可能なオープンな報告会とする。）

第15回：領域ごとのふりかえり

## 2. 授業評価・授業研究の内容

DP対応調査により12人から回答を得た。





自由記述：この授業を通して、教員になる上で、どのようなスキルが身につくと思いますか。

- ・教材開発の方法や授業設計の考え方、及び指導の実践力
  - ・教材開発、高度な教科指導のスキル
  - ・授業を構築する力
  - ・視覚的補助
  - ・より専門的な指導力
  - ・現代の教育課題について考える中で、その課題を解決するための手立てについて考える能力を育むことができる。
  - ・授業計画、教材開発
  - ・特別支援を必要としている生徒に寄り添い、豊かなスポーツライフを送ることができる生徒を育成する力が身についたと思う。
- 授業構成力
- ・対応力 実践力

### 3. 総括

D P 対応調査から、本授業は、教育学研究科教科教育専攻のD P に対応しているとの認識を受講生が持ってくれていることがわかった。「技能：専門教科の教育にかかわる高い技能を身につけている。」の観点については、次年度の課題としたい。学生の自発的な活動についても、より活発になるよう次年度の課題としたい。

次年度は、教科教育専攻としての開講が最後となる。